

科目名 Subject	日本・東洋美術史 History of Japanese and Oriental Art			教員名	永田 真紀	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2単位	
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30時間	
実践的教育	×					
主な学習効果	美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力			表現力、すなわち芸術における実践力		
	△			○		
科目の概要	日本の美術と東アジアの美術を総合的に学んでいく。水墨画を中心に解説するが、絵画・彫刻・工芸・建築だけでなく、幅広いジャンルを取り上げる。美術史としての基礎事項を解説し、歴史を紐解きながら、書画・宗教・文学・茶の湯・芸能など、さまざまな視座から日本文化の本質を深く掘り下げる。グローバリズムとローカリズムを捉えながら、自らの文化を自らの言葉で語ることを目指す。また、美しく豊かな人生を生きるための教養として、文化・芸術の幅広い知識を身につけ、その魅力を知り、生涯にわたって芸術を楽しめるような講義内容となっている。					
授業方法	基本的には対面授業で、パワーポイントを使用して講義。テーマごとに要約したレジュメを配布。					
授業の目標	東アジアの文化や芸術について、歴史や技法を学び、全体像を把握することを目指す。日本特有の美術、中国や朝鮮半島と共通する美術を理解し、グローバリズムとローカリズムを考える。最終的には、芸術に関して自らの言葉で自らの見解を述べることで、他者に東アジアの美術の特徴と魅力を紹介できるようになることを目標とする。					
時間外学習 (予習・復習)	授業内で扱った各項目について、配布したレジュメを参考に90分程度の復習を必要とします。また、次回内容の予習を30分程度必要とします。計120分の時間外学習を必要とします。配布した資料を単に読んで覚えるのではなく、理解した上で各テーマについて自らの見解をまとめること。関心事項や疑問に思ったことは、授業内で提示した方法で積極的に「調べて、考える」こと。					
教科書・教材	教科書	島尾新『水墨画入門』（岩波新書、2019年）				
	教材	特になし				
	使用設備・備品	パソコン・プロジェクター				
	参考文献	適宜、授業内で紹介します				
評価方法	平常30％ 授業内レポート(ミニ課題)30％ 期末レポート40％					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	ミニ課題については次回授業時に総括コメントを返します。					
履修上の注意	授業の内容を要約したレジュメは、予習・復習及び、レポートの作成に必要となります。尚、授業は著作物に該当します。ネット掲載、転用は禁止です。					
本科目履修と関連する資格	資格名					

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	日本の美術・アジアの美術	本講義のプロローグとして、アジアと日本の美術の概要を理解し、説明することができる。	今後の授業をしっかりと理解するため、テーマを明確にしておくこと。
第2回	仏の祈り・仏の姿 ～宗教と芸術～	仏教による社会の変化、文化の進展を知り、仏像や寺院建築の美について述べるができる。	仏教の概略を理解し、社会に及ぼした影響や、仏像や絵画の技の美を復習しておくこと。
第3回	書の芸術	アジアの漢字を知る。文字のデザイン・書体の歴史・書家などを知り、説明することができる。	書の身体性やデザインの力を学習。日常見かける様々な書体について、場と機能を考えること。
第4回	アニメの源流、絵巻の世界	物語を絵画化した絵巻について考察する。絵巻という長大なメディアを活かした表現方法を解説することができる。	アニメの源流とも言えるべき絵巻の特徴を復習し、現代の映像作品やマンガとの連関を考えること。
第5回	禅とは何か？ ～教義・美術・建築を知る～	禅とは何か、どういう美術があるのか、体系的に理解し説明することができる。	禅の基本事項を理解し、建築や美術など、興味を持った事項について調べてみる。
第6回	水墨画の基礎	東アジア独自の筆墨文化である水墨画。歴史的背景、道具の基本、表現の可能性などを包括的に述べるができる。	予習・復習で、教科書『水墨画入門』第1章・第2章を読んでおくこと。
第7回	唐物趣味と将軍家のコレクション	唐物趣味の室町時代。将軍家のコレクション（東山御物）を中心に請来された中国美術について説明することができる。	請来された中国や朝鮮半島の美術について理解を深める。東アジアに通じる美術について考える。
第8回	詩画軸を読み解く～如拙・周文～	詩画軸の制作過程や、構図や技法、画題、歴史などを総合的に考察。詩画軸について述べるができる。	教科書『水墨画入門』第6章を読んで復習しておくこと。
第9回	室町水墨の極み、雪舟の芸術	画僧雪舟の卓越した画技、独自性、画力を考察。雪舟の作品と人生を通じて、室町時代的水墨画を述べることができる。	レジュメと教科書『水墨画入門』第5章を読んで復習しておくこと。
第10回	茶の湯という芸術	絵画、工芸、立花、香、建築、造園など総合芸術として解説。茶の湯という文化について包括的に述べることができる。	概要を復習し、文化としての茶の湯を総括すること。
第11回	江戸時代の写実表現 円山応挙	アジアの絵画技法におけるリアリティ表現を西洋美術と比較して述べるができる。	さまざまなリアリティ表現の特徴を復習すること。西洋と東洋の相違点を復習しておくこと。
第12回	奇想の画家 若冲と蕭白	奇想の画家として知られる若冲と蕭白の造形美、技法や制作背景、人物像などを解説することができる。	興味を持った作品について、自分で調べてまとめること。
第13回	琳派のデザイン	宗達・光琳から現代に至るまで、絵画や工芸、デザインなど琳派の芸術を述べることができる。	授業の内容を復習し、現代における琳派の影響を考える。
第14回	浮世絵に見る江戸の賑わい	浮世絵の成立や制作過程、流行や技法を学び、江戸時代の日常や流行を述べることができる。	浮世絵を通じて垣間見た江戸時代の日常生活や風俗を理解し、関心をもったことについて調べてみる。
第15回	万国博覧会とジャポニスム	西欧におこったジャポニスム。影響を与えた日本美術と感応された西洋美術を説明することができる。	美術における日本と西欧諸国の影響関係、万博の果たした役割を復習しておくこと。